

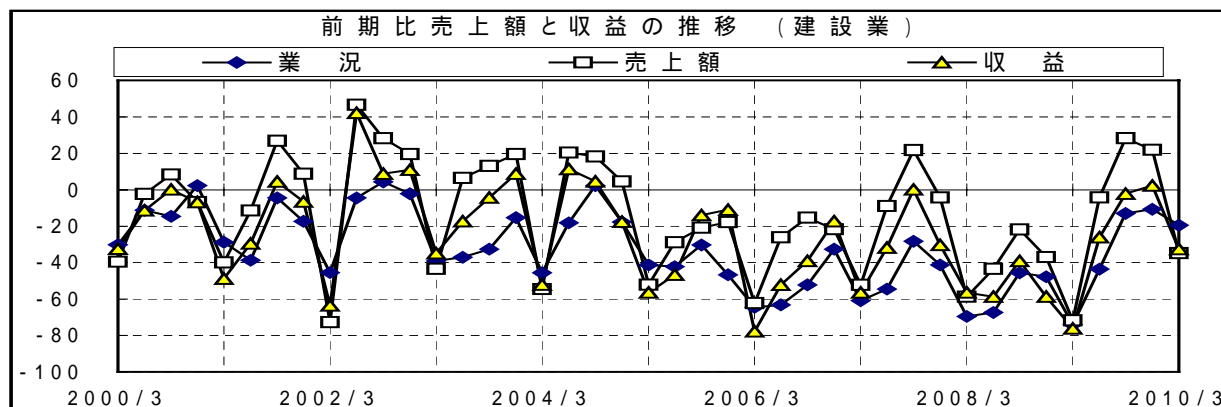
建設業 46 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

景況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業況	-13.0	-10.8	-19.5	-50.0
売上額	28.2	21.8	-34.8	-26.1
収益	-2.2	2.2	-32.6	-28.2

今期の業況判断DI値は 19.5 と、前期比悪化しマイナス値が 8.7 ポイント拡大した。地区別にみると、えりも、広尾地区が改善し、三石、様似地区が横ばい、浦河、静内地区で悪化している。

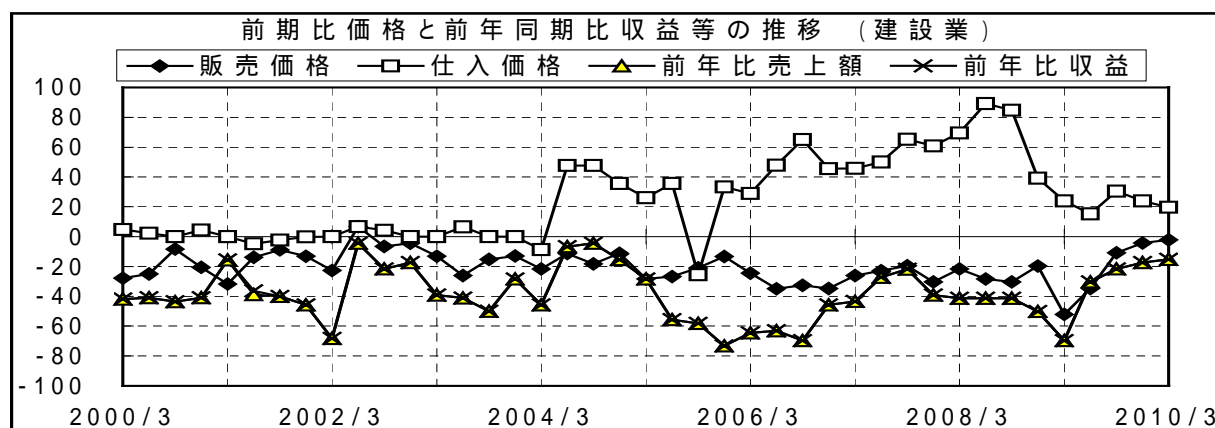
売上額、収益判断DI値は、売上額が 34.8、収益が 32.6 と、前期比それぞれプラスからマイナス値に転じ 56.6、34.8 ポイント低下した。



価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
請負価格	-10.9	-4.2	-2.2	-30.5
仕入価格	30.5	23.9	19.6	2.3

請負価格判断DI値(2.2)は、前期比マイナス値が縮小し 2.0 ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。仕入価格判断DI値(19.6)は、前期比プラス値が縮小し 4.3 ポイント低下、価格上昇基調を弱めている。



雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-8.8	0.0	-0.1	-36.9
人手状況	-2.1	-19.6	0.0	15.2

残業時間判断DI値は 0.1 と、残業時間が減少したとする企業割合が極僅か増え、前期比 0.1 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 0.0 と、前期比マイナスからゼロ値に転じ 19.6 ポイント上昇、過不足感が拮抗している。

設備投資の動き

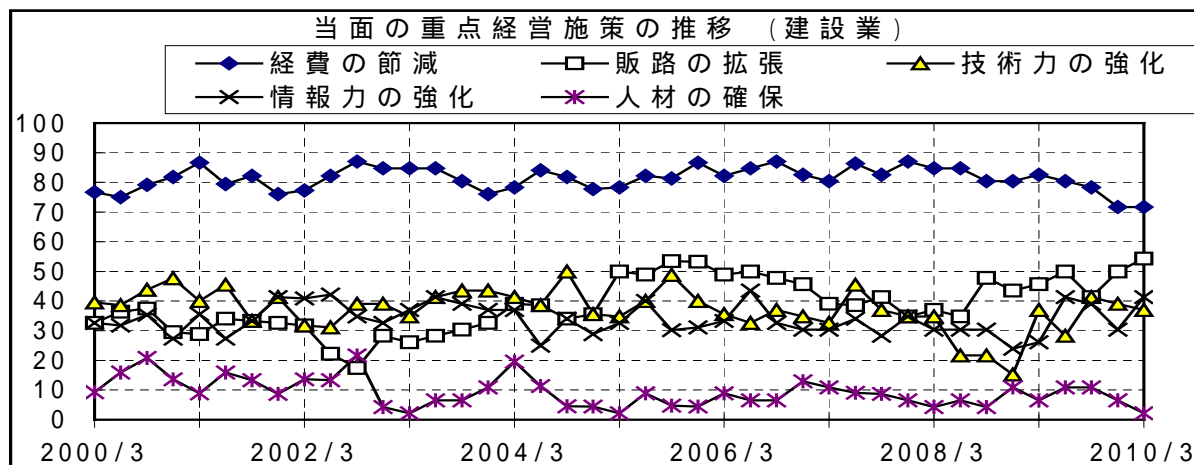
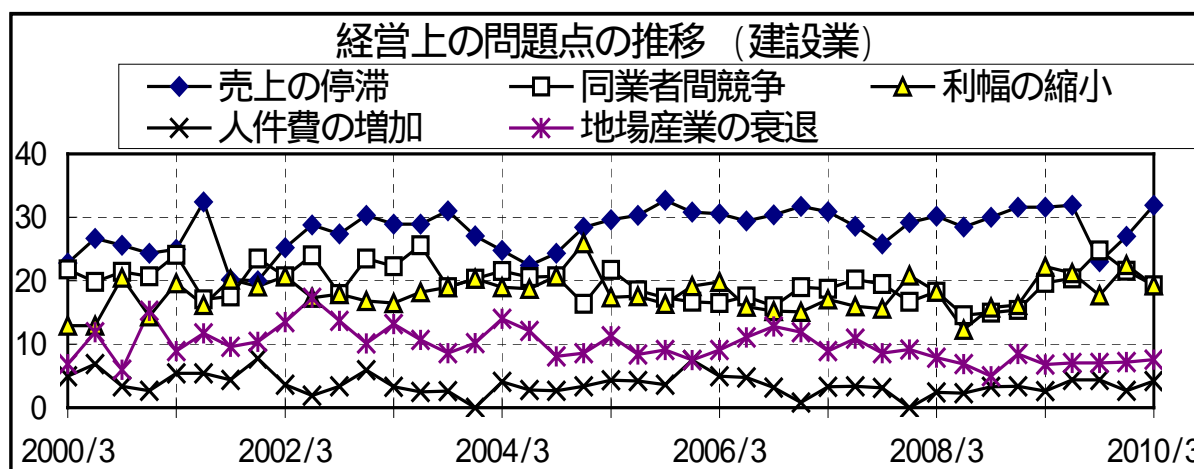
設備投資の充足感を示すDI値は 2.1 と、前期(6.5)のプラスからマイナス値に転じ8.6ポイント低下、不足感を強める一方、適正と回答した企業は 80.5%と、前期(84.7%)から4.2ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 21.7%と、前期(13.0%)比 8.7ポイント上昇、件数で前期の6社に対し10社の実施となった。また、来期予定では当期比2社減の8社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 31.9%、次いで「同業者間競争」、「利幅の縮小」19.3%、「地場産業の衰退」7.6%の順に続き、前期との比較では「売上の停滞」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業、設備工事業ともに「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 71.7%、次いで「販路を広げる」54.3%、「情報力の強化」41.3%、「技術力を強化する」37.0%の順となっている。業種別にみると、総合工事業が「経費の節減」、職別工事業が「経費の節減」、「販路を広げる」、設備工事業が「経費の節減」、「技術力を強化する」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期(平成22年4~6月期)の予想業況判断DI値は 50.0 と、今期(19.5)実績比 30.5ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断DI値は、売上額が 26.1(今期 34.8)、収益が 28.2(今期 32.6)と、今期実績比それぞれマイナス値が縮小し 8.7、4.4ポイント上昇見通しとなっている。

予想請負、予想仕入価格判断DI値は、請負価格が 30.5(今期 2.2)と、今期実績比マイナス値が拡大し 28.3ポイント低下、価格低下基調が強まる一方、仕入価格は 2.3(今期 19.6)と、プラス値が縮小し 17.3ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

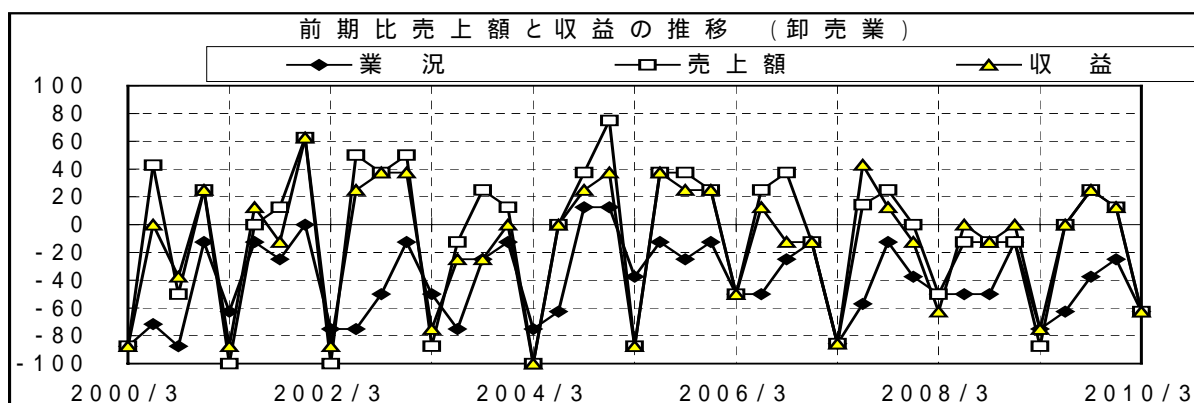
卸売業 8企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

景況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業況	-37.5	-25.0	-62.5	-50.0
売上額	25.0	12.5	-62.5	25.0
収益	25.0	12.5	-62.5	25.0

今期の業況判断DI値は 62.5 と、前期比悪化しマイナス値が 37.5 ポイント拡大、5業種中最も低い水準となった。地区別にみると、浦河、静内地区が横ばい、三石、様似地区で悪化している。

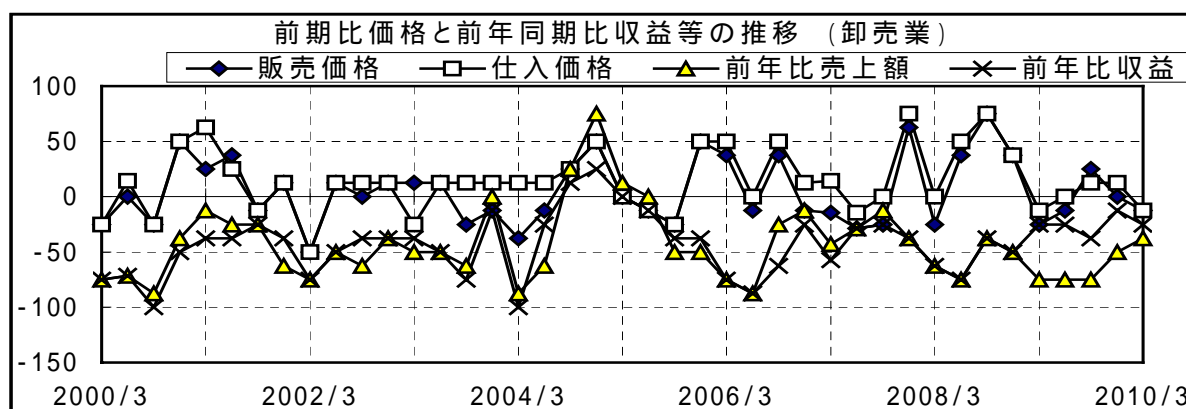
売上額、収益判断DI値は、売上額が 62.5、収益が 62.5 と、前期比それぞれプラスからマイナス値に転じ 75.0、75.0 ポイント大きく低下した。



価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	25.0	0.0	-12.5	-12.5
仕入価格	12.5	12.5	-12.5	0.0

販売価格判断DI値(12.5)は、前期比ゼロからマイナス値に転じ 12.5 ポイント低下、仕入価格判断DI値(12.5)は、前期比プラスからマイナス値に転じ 25.0 ポイント低下、それぞれ価格低下基調を強めている。業種別にみると、農林・水産が販売・仕入価格ともに低下、食品が販売・仕入価格ともに上昇している。



雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	12.5	12.5	-12.5	25.0
人手状況	-12.5	-12.5	25.0	12.5

残業時間判断DI値は 12.5 と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比 25.0 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 25.0 と、前期比マイナスからプラス値に転じ 37.5 ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

設備投資の動き

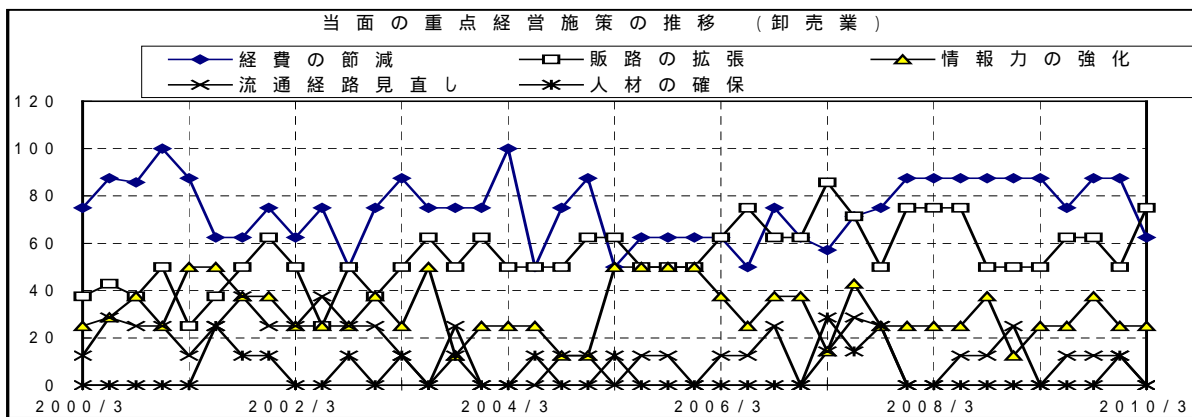
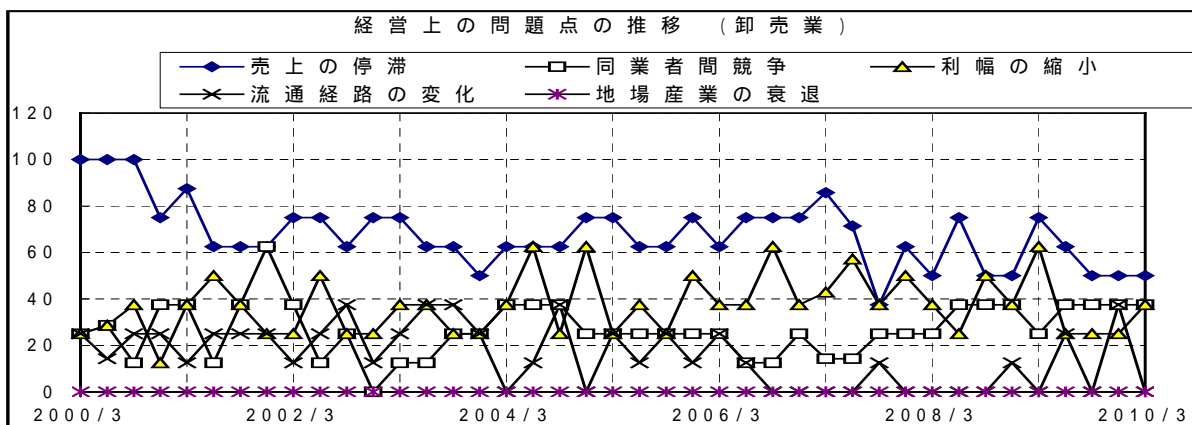
設備投資の充足感を示すD I値は12.5と、前期(0.0)のゼロからプラス値に転じ12.5ポイント上昇、過剰感を強める一方、適正と回答した企業は87.5%と、前期(100.0%)から12.5ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は25.0%と、前期(25.0%)比横ばい、件数で2社の実施となった。また、来期予定では当期比2社減のゼロとなっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「取引先の減少」をトップに挙げ62.5%、次いで「売上の停滞」50.0%、「同業者間との競争」、「利幅の縮小」37.5%の順に続き、前期との比較では「取引先の減少」、「利幅の縮小」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、農産・水産、食品が「取引先の減少」、「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「販路を広げる」をトップに挙げ75.0%、次いで「経費の節減」62.5%、「情報力の強化」25.0%の順となっている。業種別にみると、農産・水産が「経費の節減」、食品が「販路を広げる」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期(平成22年4~6月期)の予想業況判断D I値は50.0と、今期(62.5)実績比12.5ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、売上額が25.0(今期62.5)、収益が25.0(今期62.5)と、今期実績比それぞれマイナスからプラス値に転じ87.5、87.5ポイント大幅上昇見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I値は、販売価格が12.5(今期12.5)と、今期実績比横ばいの低下基調にある一方、仕入価格は0.0(今期12.5)と、マイナスからゼロ値に転じ12.5ポイント上昇、価格の上昇、低下見通しが拮抗している。